



２０１５年２月１０日

～稀少・難治性疾患研究の新展開～

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュートシンポジウム

「動物のゲノム編集とその医学応用」

を３月１３日（金）、 駿河台キャンパスで開催

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート（MUIIBR）は、シンポジウム「動物のゲノム編集とその医学応用」を、３月１３日（金）に駿河台キャンパスで開催します。

シンポジウムでは、哺乳動物を対象とするゲノム編集技術や個々の疾患のモデルブタ（疾患モデル）の作出技術による難治性疾患研究の新展開について、ゲノム編集技術の１つである「ＴＡＬＥＮ」を用いた動物の研究で世界をリードする、米国ベンチャービジネス・Ｒｅｃｏｍｂｉｎｅｔｉｃｓ社のスコット・ファーレンクラグ博士、筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）研究の第一人者である井上治久・京都大学iPS細胞研究所（CiRA）教授、医学研究用の遺伝子改変ブタの開発で世界をリードする、長嶋比呂志・明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート所長（農学部教授）らによる最新の研究発表が行われます。

**シンポジウム「動物のゲノム編集とその医学応用」**

■日時： ３月１３日（金）　１３：００ ～ １６：３０

■会場： 明治大学 駿河台キャンパス グローバルフロント グローバルホール （千代田区神田駿河台１－１）

■講演内容：

１．Scott Fahrenkrug (Recombinetics CEO)

「Editing Livestock Genomes for Food & Medicine」（家畜ゲノム編集の農業・医学利用）

２．井上治久 (CiRA:京都大学iPS細胞研究所 教授)

「iPS細胞を用いた神経疾患研究」

３． 黒目麻由子(LAFUGA：ゲノム機能解析研究所 ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン研究員)

　　「大型モデル動物の必要性とその開発の現状」

４．長嶋比呂志 (明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート所長／明治大学農学部教授)

　　「ブタのゲノム編集と疾患モデル開発への応用」

■主催： 明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート　■協力： 朝日新聞社

■申込方法： こちらのウェブサイトより、申込みをお願いします（参加無料）。

　　　　　**http://www.meiji.ac.jp/koho/news/2014/150313.html**

**＜シンポジウムに関するお問い合わせ＞**

明治大学バイオリソース研究国際インスティテュート　☎ ０４４－９３４－７８２４

**＜取材に関するお問い合わせ＞**広報課　担当：角田（かくだ）　☎ ０３－３２９６－４３３０